

臨時農業生産情報

(低温に対する技術対策)

平成 23 年 7 月 29 日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

県内の気温は、7月31日から8月3日頃まで、県南地方を中心に平年よりかなり低くなる見込みとなっています。

このため、今後の気象状況に十分注意し、次の事項に留意して、水稻の栽培管理に万全を期してください。なお、番水制を実施している地域では、かんがい水をゆずり合いながら効率的な用水利用を図り、可能な限り入水して下さい。

- 1 出穂前では、平均気温20℃以下、又は最低気温17℃以下の低温が予想される場合は、15cm以上の深水にして幼穂を保護し、障害不稔の発生を防止する。
- 2 出穂・開花期では、平均気温20℃以下の低温が予想される場合は、10cm程度の深水管理とする。なお、この時期は最も水を必要とする時期なので、低温でない場合でも、5～6cm程度の水深を維持し、開花・受精に支障のないようにする。
- 3 入水にあたっては、昼間止水・夜間かんがいとし、水田の水温が急激に低下しないよう徐々に深水とする。
- 4 ほ場をよく見回り、畦畔を点検・補強して漏水防止に努める。



報道機関用提供資料	
担当課 担当者	農産園芸課 稲作振興グループ 菊池主査
電話番号	直通 734-9480 内線 3456
報道監	農林水産部 高原農商工連携推進監 内線 3181